

# あまがさき

## ”こども食堂”フォーラム！

～多様な地域実践から、”こども・若者支援”を振り返る～

2025年



11月18日(火)13時30分～16時

▶中央北生涯学習プラザ1階ホール

(東難波町2-14-1)

2015年に尼崎市内で「こども食堂」が始まって10年、その数は今では50カ所に増えました。

運営の形や思いは様々ですが、地域でともに暮らすこどもや子育てをする親の現状に、

「なんかできることないやろか」と考え、グループや近所の人等が集まって、

「ご飯つくって食べる場、つくろか」と、地域の大人が中心となって、活動を始めていきました。

一方、夕方や朝・昼の「こども食堂」だけでなく、夜の居場所や「職・住の支援」実践、

また、若者年代が自分たちで場をつくる実践等、「こども食堂」の広がりをきっかけに、

多様な地域実践が、尼崎市内に増え続けています。

そんな実践から学び合い、次の10年、いや明日からの地域には、  
どんな”居場所”や”こども食堂”が求められているのか、考えます。

ゲスト(敬称略)

### 「タヤけ食堂」(大庄地区)

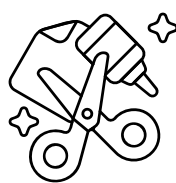
▶地域の会館で月2回、コロナ下でも唯一?!

会食を続けてきた、婦人会メンバーで運営のこども食堂。



### 「水堂きっずくらぶ」(立花地区)

▶公共施設で月2回、食だけでなく「あそび」も大切に、  
30人以上のボランティアで運営中のこども食堂。



### 「そのっこタヤけ食堂」(園田地区)

▶昔の喫茶店で月2回、学校とも連携しながら、  
長期休みの弁当配布含め、10年めのこども食堂。



### 「NPO法人ASK」(小田地区)

▶若者自身が運営するスケートボードパークを開設。  
パーク自体が小学生から若者年代までの”居場所”にも。



### 「(一社)ひと房の葡萄」(大庄地区)

▶週1回、晩ご飯を食べて過ごす居場所。  
自立支援型シェアハウスの運営も。



【申込み】先着80人、どなたでも参加できます。

▶メールか、申込みフォームで「名前、所属(任意)、人数、連絡先」  
をご連絡ください。

▶情報保障を希望される方は11月4日(火)までにご連絡ください。

【連絡先】尼崎こども食堂ネットワーク事務局

ama.kodomoshokudou@gmail.com

申込みフォーム



尼崎こども食堂  
ネットワーク

共催：尼崎こども食堂ネットワーク、尼崎市こども青少年課